みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

バック・カム一族家霊簿ノート（日本語訳・校注）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樫永, 真佐夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001411

3「バック・カム一族家霊簿ノート」

この祖霊簿資料は，カム・チョンが父カム・ビンから譲り受けたものという。そのカム・ビンはトゥアンチャウ首領の子孫から譲られたというが，その詳細については不明である。A 4 ノートに記されている。おそらく1950年代に記されたものであろう。

凡例

1，原本には，「某（なにがし）には息子が何人いた」という見出しごとに，その父祖の息子の名前が記され，それぞれの息子には 1 から順番に数字が付され，その父祖に何人の息子がいたか明示されている。この数字を本校注では半角数字で示した。なお，それとは別に 1 から13までの全角数字も本校注には見える。その全角数字は，原本を書写した人物者がロ・レップ公を起点として何世代めにあたるか示そうとした数字らしい。おそらく13まで記した時点で不整合に気づいたのか，14以下の数字はない。

2，〈〉内の数字は，何番目の見出しかを明示するために，校注者（樫永）がつけた。〈〉内のピリオドの前の半角数字が，原本の最初の見出しにある父祖ロ・レット公を起点 1 とした世代番号となっている。見出しに登場するある父祖が他の見出しに現れる他の父祖と同一世代に属する場合には，〈4.1〉，〈4.2〉などのように，〈〉内冒頭の数字は変えず，ピリオド（.）をうち，ピリオド以下の数字で各人を区別した。

3，[] 内の数字は，それぞれの父祖の世代と親子兄弟関係を示すために校注者（樫永）がつけた，いわば各父祖の ID 番号である。たとえば［10.3-4］と記した場合，その父祖が「〈10.3〉という見出しがついた父祖の 4 番目の息子」であることを示している。したがって，[] 内の冒頭の数字も，〈〉と同じく，父祖ロ･レット公を起点 1 とした世代番号に対応している。

4，原本の筆者（おそらくルオン・ヴァン・ヌア）があとで書き加えたと思われる箇所については，｛｝で記した。原本におけるその箇所は，筆跡はもとの本文と同じであるが，インクの色がはっきり異なっている。

5，黒タイ文字による文中の数表示は，アラビア数字に直した。ただし，1 の数については，黒タイ語の語順との関係から「ꪫ」のままとした。

〈1〉ラオ王を頼んだカム・レップ公[1]は，戻ってくるとムオン・ムオイ長官[2]をつとめた。カム・レップ・グー・ハウ公には息子が9人いた。

1[3]

1　名はタオ・ウン，ラオのムオン・ルオン・ファー・バン[4]のセン・サー職をつとめた。

2　名はタオ・コン・ムオン，父存命中にかわってムオン・ムオイ長官となった[5]。

3　名はタオ・ニョック・ニャー・ルー，ムオン・タインの長官をつとめた。

4　名はタオ・チエン・リー，ムオン・ムオイのオン・センをつとめた。

5　名はタオ・ピエン，ラオの下ムオン・プオン[6]の長官をつとめた。

6　名はタオ・ハーン，役職はなかった。

7　名はタオ・コーン，役職はなかった。

8　名はタオ・ナイ，役職はなかった。

9　名はタオ・タ・カム，ムオン・ムオイ長官を嗣いだ。

〈2〉タ・カム公［1–9］に息子が7人いた。

1）ロ・レップ公は，年代記『クアム・トー・ムオン』に登場する黒タイの父祖の中で，もっともよく知られている人物の一人である。『ムオン・ムオイの慣習法』という文書中にも登場する。ロ・レップ（ꪮ ꪫꪕꪮ），ロ・カム・レップ（ꪮ ꪀꪎ ꪫꪕꪮ），ロ・レット（ꪮ ꪀꪎ ꪫꪕꪮꪊ），ロ・カム・レット（ꪮ ꪀꪎ ꪫꪕꪮꪊ）といった名前で呼ばれる。本名はロ・（カム・）レップであるが，レップ（ꪫꪕꪮ）は「なすりつける」という意味をもち，きれいなことばではないので，ロ・（カム・）レットの呼称でしばしば呼ばれる。また，伝承にちなみ，コブラを意味するグー・ハウ（ꪶꪷ ꪭꪊꪱꪉ）という異名でも知られる［樫永　2002：435］。その異名の由来については，［Cầm và Cầm（dịch）　1960：15–16］に詳しい。『ムオン・ムオイの慣習法』文書によると，ラン・チュオン公から下ること12代目，ムオン・ムオイを黒タイの政治的中心とした父祖である［樫永　2002：388］。

2）ここでは，地方の長であることを意味するクアン・チャウ（ꪀꪱꪙ　ꪭꪷ，キン語のquan châuすなわち「州官」）を「長官」と訳した。

3）凡例にも記したとおり，ロ・レップ公を起点として世代数を数えようとして書写者が記した数字らしい。

4）ラオスのルアンパバーンのことである。

5）父が生きている間に位を継いだのである。

6）現在ラオスのシエンクアンにある。ルオン・ヴァン・ティック版『クアム・トー・ムオン』にある「タオ・ピエンもグー・ハウ公（ロ・レップ）の息子であるので，君主（グー・ハウ公）は彼にムオン・プオンを食邑させた」［樫永　2003：177］という記述に一致する。

2

1　名はタ・ガン，タ・カム［1-9］を嗣いで長官をつとめ，また山地部の長使の職に就いた[7]。

2　名はタ・デック，ムオン・ラの長官をつとめた。

3　名はタ・トーン，ムオン・ムアッの長官をつとめた。

4　名はタ・ヒン，ムオン・エッ[8] の長官をつとめた。

5　名はタ・ダム，ムオン・フアッの長官をつとめた。

6　名はカム・ナム・ナーン，役職はなかった。

7　名はソーン・コアン，タ・デック［2-2］を嗣いでムオン・ラ長官をつとめたが，ムオン・ブー[9] で右をつとめた[10]。

〈3〉タ・ガン公には息子が5人いた。

3

1　名はファー・ニュー，タ・ガン公を嗣いでムオン・ムオイ長官をつとめた。しかし，ラオ王に従わず，ルーの土地の下ムオン・ウー頭領[11] となる[12]。

2　名はタオ・グア・チュルン[13]，役職はなかった。

7）ꪵꪱꪶꪎ꫁ꪫ は「長使（trưởng sứ）」，ꪵꪹꪶꪎ ꪘ꫁ は「山岳地域」を意味するキン語 thượng dú である。山地部の長使，すなわち山地支配のための土司職に任ぜられていたことを意味しているのであろう。

8）現ソンラー省トゥアンチャウ県ムオン・エー社（Mường É）にあたる。

9）現ソンラー省ムオンラー県ムオン・ブー社（xã Mường Bú）にあたる。

10）タ・ガン公を補佐する役職者である「右」をつとめたという意味である。ムオン・ブーは右のムオン（ꪵꪱꪶ ꪱꪱꪹ）と呼ばれた。

11）ここでは，チャウ（ꪵꪱꪎ）を「頭領」と訳した。

12）「ルーの土地の下ムオン・ウー」とはウー側上流部である。ルオン・ヴァン・ティック版『クアム・トー・ムオン』によると，ファー・ニューの政治は悪辣で民心を重んじなかったため，ラオ王サムセンタイによってムオン・ムオイ首領の地位を奪われ，メコン支流ウー河の上流部プー・ファン（ꪘꪽ ꪱꪶ，*Pũ Phang*）すなわちラオスベトナム国境の現ライチャウ省ムオンテー県にあると思われる土地に追放された記事が詳しく記されている［樫永　2003：194-195］。

13）カム・チョンによると，この人物は現在のチエンリー社（xã Chiềng Ly）ボー村（bản Bó）に住んだことになっているという。

3　名はカム・バーン，チエン・ポック[14] の長[15] をつとめた。

4　名はムン・ハム，ファー・ニューにかわって［3-1］，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

5　名はズオン・カム，ソーン・コアン［2-7］を嗣いでムオン・ラ長官をつとめた。

〈4〉ムン・ハム公［3-4］には息子が2人いた。

4

1　名はムン・ブー，ムン・ハム［3-4］を嗣いでムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はムン・ラーン，ムン・ブー［4-1］を嗣いでムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈5.1〉ムン・ブー公［4-1］には息子が2人いた。

1　名はムン・カム・ヴィン，ムン・ラーン［4-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はムン・カム・バーン，ムン・カム・ヴィン［5.1-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈5.2〉ムン・ラーン（ラーン・ムオン）[16]［4-2］には息子が1人いた。

5[17]

1　名はガン・パン・マー，カム・バーン［5.1-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官

14）チエン・ポックはムオン・ムオイの外ムオンであった。現ソンラー省トゥアンチャウ県チエンパック社（xã Chiềng Pấc）にあたる。




チエン・ポック（2002年11月撮影）：右上の写真は，仏領期まで「ムオンの柱」がたっていた場所

15）ここでは，タオ（ꪵꪱꪣ）を「長」と訳した。

16）ムン・ブーまでは，その息子の名前を紹介する見出し文において，「公（ꪀꪾ ꪵꪮꪚ）」という尊称があったが，ここ以降その尊称が記されていない。

17）ここに5世代目ということを示すらしい「5」の数字が記されているのは，〈5.1〉，〈5.2〉

をつとめた。

〈6.1〉カム・バーン［5.1-2］には息子が2人いた[18]。

1　名はカム・ニェン・ソー，ムン・ラーン［5.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はカム・ニェン・ホア，カム・ニェン・ソー［6.1-1］，ムン・ラーン［5.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた[19]。

〈6.2〉ガン・パン・マー［5.1-2］には息子が10人いた。

6[20]

1　名はタオ・ニー，役職はなかった。

2　名はタオ・トゥン，役職はなかった。

3　名はタオ・ケオ・ブン・スン，カム・ニェン・ホア［6.1-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。司馬，正額の役職を得た[21]。

4　名はタオ・ナーン・セン，役職はなかった。

5　名はタオ・ネーン・ルー，役職はなかった。

6　名はタオ・カム・トォン，役職はなかった。

7　名はタオ・ブン，役職はなかった。

8　名はタオ・コアン，役職はなかった。

9　名はタオ・セン・ファー・マン，役職はなかった。

10　名はタオ・トーン・パン・チャン，役職はなかった。

が5代目ということであろう。

18）ここは，「ガン・パン・マーには息子が10人いた」という文が二重線で訂正され「カム・バーンには息子が2人いた」と書き直されている。ガン・パン・マーの10人の息子の紹介は，このすぐあとにあることからして，ここは単純にカム・バーンの息子の紹介を書き忘れていたのだろう。

19）カム・ニェン・ソーとカム・ニェン・ホアの2人は仲違いし，結局カム・ニェン・ホアはムオン・チャイン（ꪣꪸꪶ ꪣꪉꪱꪾ）へと去った。この時以来，ムオン・ムオイを占めたカム・ニェン・ソーは姓をカムからバック・カム（ꪏꪱꪊꪫ ꪀꪫ）にかえた。黒タイ語で「金」を意味する姓カムの前に，キン語で「銀」を意味するバックをつけてバック・カムとしたのである。こうしてムオン・ムオイの貴族出自の姓はバック・カムとなった。

20）ここも「5」のところと同様，〈6.1〉，〈6.2〉が6代目ということであろう。

21）ꪕ ꪑꪊꪱꪍ とは「司馬」である。ꪣꪉꪱꪾ ꪱꪑꪉꪶ は「正額（chính ngạch）」である。キンの王朝から册封を賜ったのである。

〈7〉タオ・ケオ（ブン・スン）［6.2-3］には息子が3人いた。

7

1　名はオム・チュン（フィア[22]・ブン），ブン・スン［6.2-3］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
2　名はタオ・コーン，役職はなかった。
3　名はタオ・フック，役職はなかった。

〈8〉オム・チュン（フィア・ブン）［7-1］には息子が5人いた。

8

1　名はカム・パイン，オム・チュン［7-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
2　名はタオ・ウオン，役職はなかった。
3　名はタオ・ヴァーン，役職はなかった。
4　名はタオ・ホー，役職はなかった。
5　名はタオ・ウット，役職はなかった。

〈9〉カム・パイン・タオ・ニー［8-1］には息子が2人いた。

9

1　名はフィア・ムン，カム・パイン［8-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
2　名はカム・ハック，フィア・ムン［9-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめ，司馬の職を得た。

〈10.1〉フィア・ムン［9-1］には息子が4人いた。

１０

1　名はオン・シック，役職はなかった。
2　名はオン・ヴェー，役職はなかった。
3　名はタオ・カム，役職はなかった。

22）フィアについては，原本には白タイ文字表記でꪜが用いられているが，黒タイ文字表記によりꪜに改めた。以下も同様である。

4　名はタオ・ドー，役職はなかった。

ここまで終了[23)]

〈10.2〉（王が册封した）[24)]　カム・ハック（司馬）［9-2］には息子が 5 人いた。

１１[25)]

1　名はタオ・ヴァン・ムオン，カム・ハック［9-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめ，少保クアインの役職を得た[26)]。

2　名はニョット・ムオン，ヴァン・ムオン［10.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

3　名はオン・サン・ギア・チョム・ムオン，ニョット・ムオン［10.2-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

4　名はクアン・スオン，役職はなかった。

5　名はフィア・ブン，役職はなかった。

〈11.1〉（王が册封した）　少保クオン・ヴァン・ムオン［10.2-1］には，息子が 3 人いた。

1　名はフィア・マーン・ケオ，ギア・チョム・ムオン［10.2-3］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はオン・ドック，役職はなかった。

3　名はオン・ムオン，役職はなかった。

〈12.1〉オン・ドック［11.1-2］には，息子が 1 人いた。

１２

1　名はオン・チュオン・ソン，フィア・マーン・ケオ［11-1］を嗣いで，ムオン・

23）原本はここでページが切れている。最初，書写者はここで終わるはずのつもりだったのかもしれない。

24）「王が册封した（√ɖəɓ xń）」という小さい字での書き込みが見られるが，カム・チョンによると，これはカム・ビンの筆跡であるという。ここにある「王」とはキンの王すなわちベトナム皇帝のことであろう。

25）カム・ハックはフィア・ムンの兄弟なので，カム・ハックやフィア・ムンと同じく10代目にあたるため，この「11」は誤りである。

26）ʔɔ́ √ɪɔj ɪaɓ は「少保のクオン（cường：強）」である。「強（クオン）」はヴァン・ムオンのキン語名であろう。

ムオイ長官をつとめた。

〈11.2〉ニョット・ムオン・フィア・タオ［10.2-2］には息子が2人いた。

１３[27]

1　名はフィア・ケオ・コン・ムオン，チュオン・ソン［12.1-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はタオ・ウン，役職はなかった。

〈12.2〉フィア・ケオ・コン・ムオン（少保アーン）[28]［11.2-1］には息子が10人いた。

1　名はカム・フア，フィア・ケオ・コン・ムオン［11.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

2　名はカム・ファン，役職はなかった。

3　名はチュオン・チエウ，役職はなかった。

4　名はチュオン・ドン，役職はなかった。

5　名はチュオン・ナーム，役職はなかった。

6　名はチュオン・シン，役職はなかった。

7　名はチュオン・ヴァン，役職はなかった。

8　名はスー・グエン[29]

9　名はスー・ダオ

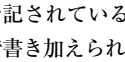
10　名はタオ・ウン

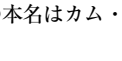
〈13.1〉（王が册封した） 少保シンであるカム・フアすなわちフィア・コン・フォン［12.2-1］には息子が1人いた。

1　名はカム・ソム，カム・フア［12.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

こうして，フィア・ケオ・コン・ムオン［11.2-1］の7番目のカム・テーンが，カム・ソム［13.1-1］を嗣いで，ムオン・ムオイの長官をつとめた。

27）ニョット・ムオン・フィア・タオは10代目の父祖であるため，ここには11代目の父祖が記されるはずである。したがってこの「13」は誤りである。

28）「少保アーン」と括弧付きで記されている上に，「王が册封した（）」と，カム・ビンによると思われる筆跡で書き加えられている。

29）あとの記述から，この人物の本名はカム・テーン（）と考えるとつじつまが合う。

〈13.2〉カム・テーン（フィア・テーン・ムオン）には，息子が 3 人いた。
1　名はカム・ヒエン，役職はなかった。
2　名はカム・ドイ，カム・テーン［12.2-8］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
3　名はカム・トム

〈14.1〉カム・ソム［13.1-1］には息子が 1 人いた。
1　名はカム・ブア，カム・ドイ［13.2-2］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈15.1〉カム・ブア［14.1-1］には息子が 2 人いた。
1　名はフィア・シー，カム・ブア［14.1-1］を嗣いでムオン・ムオイ長官を 3 ヶ月つとめた。
2　名はチュオン・ブン，役職はなかった。
　こうしてカム・テーン［12.2-8］の 3 番目の息子カム・トムが，フィア・シー［15.1-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈14.2〉カム・ドイ［13.2-2］には息子が 1 人いた。
1　名はフィア・クエン，カム・トム［13.2-3］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈14.3〉カム・トム［13.2-3］には息子が 2 人いた。
1　名はカム・ファイン（フィア・チュー），フィア・クエン［14.2-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
2　名はカム・タウ，ムオン・ラム[30] の長をつとめた。

〈15.2〉カム・ファイン（フィア・チュー）［14.3-1］には息子が 4 人いた。
1　名はチュオン・カー，ムオン・エッの長をつとめた。
2　名はチュオン・ナム，ムオン・ピエン[31] の長をつとめた。
3　名はチュオン・タイ，役職はなかった。
4　名はチエウ・フオン，役職はなかった。

30）ムオン・ラムは現ソンラー省ソンマー県（huyện Sông Mã）ムオンラム社（xã Mường Lầm）にあたる。ムオン・ラムはムオン・ムオイの外ムオンであった。
31）現ソンラー省トゥアンチャウ県チエンコアン社（xã Chiềng Khoang）にあたる。

〈15.3〉カム・タウ（ムオン・ラムの長）［14.3-2］には息子が 1 人いた。

1　名はバック・カム・チン（カム・ポン），カム・ファイン（フィア・チュー）［14.3-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈16.1〉フィア・チン（カム・ポン）［15.3-1］には息子が 7 人いた。

1　名はバック・カム・クオン（カム・イン），カム・ポン［15.3-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめ，都尉の職を35年つとめた[32]。

2　名はバック・カム・サウ，ムオン・ラムの長をつとめた。

3　名はバック・カム・ビン，ムオン・クアイ[33]の正総[34]をつとめた。

4　名はバック・カム・トゥ，カム・サウ［16.1-2］を嗣いで，ムオン・ラムの長をつとめた。

5　名はバック・カム・アーン，ムオン・ムアッの長をつとめ，カム・ビン［16.1-3］を嗣いで，ムオン・クアイ正総に昇進した。

6　名はバック・カム・ハック，役職はなかった。

7　名はチエウ・ヴェン，役職はなかった。

〈17.1〉バック・カム・クオン（カム・イン）［16.1-1］には息子が 6 人いた。

1　名はバック・カム・ケー（カム・パン），父存命中より招討[35]をつとめ，カム・イン［16.1-1］を嗣いで長官職を得た。さらにディエンビエンフー[36]宣尉使[37]の職へ昇進し，45年つとめた。

2　名はバック・カム・ダイン，ムオン・ラムの長をつとめ，副知州の職を得た[38]。

32）原本には ꪵꪀ ꪮꪊ̂ と記されているが，ꪵꪀ ꪮꪊ̂ꪹe と翻字するのがより正確であり，「都尉」のことであろう。

33）現ディエンビエン省トゥアンザオ県にあたる。ムオン・ムオイの外ムオンであったが，1896年にフランスによってムオン・ムオイ（トゥアンチャウ）から切り離され，独立したチャウムオンとなったという［Cầm và Phan　1995：317-318］。

34）ꪫꪀ꪿e ꪵꪫ꪿j は「正総」のことであろう。

35）ꪀꪉ̀ ꪳꪱꪙj は「招討（Chiêu thảo）」のことであろう。

36）現ディエンビエン省都ディエンビエンフー。

37）ꪫꪉ̀ꪀ ꪮꪊ̂ ꪗ̀ は ꪫꪉ̀ꪀ ꪮꪊ̂ꪹe ꪗ̀e と翻字するのがより正確で，「宣尉使（Tuyên　uý　sứ）」のことであろう。

38）ꪻeꪀ̂ ꪀꪫ は「副知州」のことであろう。

3　名はバック・カム・チエウ，ムオン・サイ[39] の長をつとめ，書吏[40] の職をつとめた。

4　名はバック・カム・ホン，役職はなかった。

5　名はバック・カム・ファイン，ムオン・キエン[41] の長，ムオン・ピエンの正総[42] をつとめた。

6　名はバック・カム・ロック，ムオン・ドゥオン[43] の長，ムオン・ラムの正総[44] をつとめた。

〈18.1〉バック・カム・ケー（カム・パン）［17.1-1］には息子が 8 人いた。

1　名はバック・カム・フー，ムオン・ムオイ知州[45] をつとめた。

2　名はバック・カム・チュー，カム・フー［18.1-1］を嗣いでムオン・ムオイ知州をつとめた。

3　名はバック・カム・グエン，ムオン・ムオイの通吏[46] をつとめた。

4　名はバック・カム・フオン，カム・パン［17.1-1］を嗣ぎ，ムオン・ムオイ長官を45年つとめた。

5　名はバック・カム・タオ（カム・テーン），カム・チュオイすなわちバック・カム・フオン［18.1-4］を嗣ぎ，ムオン・ムオイ長官を16年つとめた。

6　名はバック・カム・サーイ，役職はなかった。

39）ダー河沿いにある，現ソンラー省クインニャイ県チエンムオン社（xã Chiềng Muôn）にあたる。ムオン・ムオイの外ムオンであった。



ムオン・サイのダー河（2004年 3 月撮影）

40）ꪁꪮꪱꪗ は「書吏（Thư lại）」のことであろう。

41）現ソンラー省トゥアンチャウ県ムオンキエン社（xã Mường Khiêng）にあたる。

42）ꪁꪣꪶ は「総（thổng）」，正総のことであろう。

43）ムオン・ドゥオンはどこか不明である。

44）ここも ꪁꪣꪶ は「総」すなわち正総であろう。

45）ꪀꪱꪁ は「知州」のことであろう。

46）ꪁꪮꪶ ꪱꪗ は「通吏（Thông lại）」のことであろう。

7　名はバック・カム・ミン，ムオン・ムオイ副里[47] をつとめた。
8　名はバック・カム・ニョット，役職はなかった。

〈19.1〉バック・カム・フー［18.1-1］には息子が 1 人いた。
1　名はバック・カム・ティエン，バック・カム・グエン［18.1-3］を嗣いで通吏をつとめた。

〈19.2〉バック・カム・チュー［18.1-2］には息子が 6 人いた。
1　名はバック・カム・カー，バック・カム・チュー［18.1-2］を嗣いでムオン・ムオイ里長[48] をつとめた。
2　名はバック・カム・ドイ，バック・カム・ミン［18.1-7］を嗣いでムオン・ムオイ副里をつとめた。
3　名はバック・カム・トム，役職はなかった。
4　名はバック・カム・シン，役職はなかった。
5　名はバック・カム・ターン，隊七をつとめた[49]。
6　名はバック・カム・ブン，役職はなかった。

〈19.3〉バック・カム・グエン［18.1-3］には息子が 2 人いた。
1　名はバック・カム・フォン , ムオン・ムオイのクアン・チュオン[50] をつとめた。
2　名はバック・カム・チュン，ムオン・サイのバック・カム・チエウ［17.1-3］を嗣いで，ムオン・ムオイ書吏をつとめた。

〈19.4〉バック・カム・タオ（カム・テーン）［18.1-5］には息子が 1 人いた。
1　名はバック・カム・テー，バック・カム・タオ［18.1-5］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官をつとめた。
　こうして，ムオン・キエンのバック・カム・ファイン［17.1-5］の息子バック・カム・ティエップ［18.2][51] は，バック・カム・カー［19.2-1］を嗣いで昇進し里長をつとめた。

47）𪜀e ĥe は「副里」のことであろう。
48）ĥe ꪵꪊj は「里長」のことであろう。なお，この場合，先にバック・カム・チューは知州であると記されていることからすると，トゥアンチャウ（ムオン・ムオイ）知州がトゥアンチャウ（ムオン・ムオイ）里長を兼任していたのであろうか。
49）ꪎꪙꪻj ꪎꪫj は「隊七（đội bảy）」のことであろう。
50）このクアン・チュオン（ꪀꪫꪱꪉ ꪵꪊj）がキンのどの官職を示すのか不明である。
51）この人物は，ここが初出である。

〈20.1〉バック・カム・ティエン［19.1-1］には息子が2人いた。

1　名はバック・カム・ウオン，バック・カム・タオ［19.1-1］を嗣いで，ムオン・ムオイ長官を10年つとめた。

2　名はバック・カム・ティエン，バック・カム・フォン［19.3-1］を嗣いでクアン・チュオンをつとめた。

こうして書吏バック・カム・チュン［19.3-2］は，バック・カム・テー［19.4-1］を嗣いでムオン・ムオイ長官に昇進し，7年つとめた。

里長バック・カム・ティエップ[52]［18.2］は，バック・カム・チュン［19.3-2］を嗣いで，書吏に昇進した。

副里バック・カム・ドイ［19.2-2］は，バック・カム・ティエップ［18.2］を嗣いで里長に昇進し，こうしてバック・カム・ドイがムオン・ムオイ長官を12年つとめた。

さらにバック・カム・トム［19.2-3?］[53]は，バック・カム・ウオン［20.1-1］を嗣いで通吏に昇進した。

〈20.2〉バック・カム・チュン［19.3-2］には息子が4人いた。

1　名はバック・カム・ムオン，バック・カム・ドイ［19.2-2］を嗣いでムオン・ムオイ知州をつとめた。

2　名はバック・カム・チン，副里をつとめ，昇進して書吏の職を得，さらに知州慰[54]についた。

3　名はバック・カム・ティエップ，バック・カム・ムオン［20.2-1］を嗣いで，副里をつとめた。

4　名はバック・カム・ナム，役職はなかった。

〈20.3〉バック・カム・ドイ［19.2-2］には息子が1人いた。

1　名はバック・カム・チャウ，バック・カム・ドイ［19.2-2］を嗣いでムオン・ムオイ長官をつとめた。

〈20.4〉バック・カム・テー［19.4-1］には息子が2人いた。

52）上の記述によると，ꪹꪮ ꪱꪶꪮꪖꪀ ꪶꪱꪖ ꪶꪱꪖ ꪱꪱꪖꪀ［17.1-5］である。

53）［19.2-3］のバック・カム・トム（ꪱꪶꪮꪖꪀ ꪶꪱꪖ）は，役職に就かなかったとあるので，そのバック・カム・トム（ꪱꪶꪮꪖꪀ ꪶꪱꪖ）のことかどうか不明である。

54）原文の ꪀ ꪶꪱ ꪮꪊ を「知州尉（Tri châu uý）」と解し，ꪀ ꪶꪱ ꪮꪊꪹ と翻字した。知州のことを示すのであろう。

1　名はバック・カム・アーン，バック・カム・チャウ［20.3-1］を嗣いでムオン・ムオイ長官を 6 年つとめた。

2　名はバック・カム・イエン，ムオン・サイ里長をつとめたあと，ムオン・タイン長官に昇進し 3 年つとめた。さらにカオバン省[55] ハダンの長官を 2 年つとめたあと，みずから退いて，ムオン・ムオイの家に戻った。

〈20.5〉バック・カム・カー［19.2-1］には息子が 1 人いた。

1　名はバック・カム・ピエン，バック・カム・ティエップ［18.2］[56] を嗣いで書吏をつとめた。その後ムオン・ヴァット[57] 長官を 2 年つとめたが，みずから退いて，ムオン・ムオイの家に戻った。そのあと，ソンラー省[58] のヒン・ビエン[59] に職を得た。

〈19.5〉バック・カム・ティエップ[60]［18.2］には息子が 5 人いた。

1　名はバック・カム・ドイ，ムオン・キエンのムオン・ピエン副里をつとめ[61]，

2　名はバック・カム・ヴァン，バック・カム・ドイ［21.1-1］を嗣いでムオン・キエンにあるムオン・ピエン副里をつとめた。

3　名はバック・カム・ヴァット，役職はなかった。

4　名はバック・カム・クオン，バック・カム・ヴァン［21.1-2］を嗣いでムオン・キエン副里[62] をつとめたが，退いた。

5　名はバック・カム・イン，役職はなかった。

〈20.6〉バック・カム・フォン［19.3-1］には息子が 3 人いた。

55）現カオバン省（tỉnh Cao Bằng）ハラン県（huyện Hạ Lang）のことであろう。

56）バック・カム・ティエップ（ꪜꪱꪮ ꪀꪱ ꪋꪱꪕ）という名前の父祖は，すでに 2 人が登場している（［18.2］，［20.2-3］）が，書吏であったという記述から，ここは［18.2］の方のバック・カム・ティエップであろう。

57）現ソンラー省イエンチャウ県にあたる。

58）現ソンラー省ソンラー。

59）ꪣꪹ ꪕꪻ（*hình biên*）はキン語の hình viên（刑務所）であろうか。

60）バック・カム・ティエップ（ꪜꪱꪮ ꪀꪱ ꪋꪱꪕ）はすでに［18.2］，［20.2-3］の 2 人がすでに登場しているが，直前に［18.2］と思われるバック・カム・ティエップが登場していること，また，［20.2-3］のバック・カム・ティエップの息子に関する記事と思われる記述は後にあるので，ここは［18.2］の方のバック・カム・ティエップであると思われる。

61）ここで文章が切れている。

62）バック・カム・ヴァンは，ムオン・キエンのムオン・ピエン副里をつとめたを記されているが，ここではムオン・キエン副里と記されている。

1　名はバック・カム・ファイン，役職はなかった。
2　名はバック・カム・チエン，役職はなかった。
3　名はバック・カム・ノイ，役職はなかった。

〈19.6〉バック・カム・ニョット［18.1-8］には息子が1人いた。
1　名はバック・カム・ドイ，役職はなかった。ムオン・ラムに住んだ。

〈21.1〉バック・カム・ティエン［20.1-2］には息子が1人いた。
1　名はバック・カム・オン，バック・カム・トム［19.2-3］を嗣いで，通吏をつとめた。その一人息子がパムである。

〈20.7〉バック・カム・シン［19.2-4］には息子が6人いた。
1　名はバック・カム・フー，ムオン・バーム[63]の長をつとめた。
2　名はバック・カム・グエン・ヒム。
3　名はバック・カム・ウイ。
4　名はバック・カム・ソーン。
5　名はバック・カム・サム。
6　名はバック・カム・セン。

〈20.8〉バック・カム・ターン［19.2-5］には息子が2人いた。
1　名はバック・カム・イン｛ポム[64]。ヌアット[65]の長｝。
2　名はバック・カム・ソム｛ダイン｝。

〈20.9〉バック・カム・ブン［19.2-6］には息子が1人いた。
1　名はバック・カム・ヘー，すなわちタオ・モー。

〈21.2〉バック・カム・アーン［20.4-1］には息子が5人いた。
1　名はバック・カム・クイ[66]，バック・カム・アーン［20.4-1］を嗣いでムオン・ムオイ長官をつとめた。その後祖父の代まで官職にあった。

63）ムオン・バームはどこか不明である。
64）この ʍɵɻʃ がどういう意味か不明である。
65）ヌアット村（ʌɪɻʲʍɻʕn）のことで，ムオン・ラムに属するローンであった。
66）バック・カム・クイ（ʍɪnʲ a̋ nɔ̂ʌɛ）と翻字する方がより正確である。ムオン・ムオイ最後のアン・ニャーである。

2　名はバック・カム・チョム，ムオン・ムオイ副里をつとめた。

3　名はバック・カム・フイ[67]，ムオン・サイのフィアをつとめた。　｛里長｝

4[68]　名はバック・カム・ヴィン，ムオン・ラムのフィアをつとめた。　｛里長｝

5　名はバック・カム・カン，｛幼少の折から留学して3証書[69]を収め，ムオン・タックのアン・ニャー。｝

〈21.3〉バック・カム・ピエン［20.5-1］には息子が5人いた。

1　名はバック・カム・ミン，タブー[70]で教師をつとめた。

2　名はバック・カム・サーン　｛ナー・カーイ村の長になった。｝

3　名はバック・カム・コアン　｛ナー・ノーイ村の長になったが，亡くなった。｝

4　名はバック・カム・ターン　｛亡くなった[71]。ムオン・キエンで村の教員[72]になった。｝

5　名はバック・カム・タン　｛省[73]で医師となった。｝

6　名はバック・カム・クオン　｛ムオン・ムオイ副里をつとめた。｝

〈21.4〉バック・カム・チャウ［20.3-1］には息子が3人いた。

1　名はバック・カム・ゾン，チエン・ディー村[74]の長をつとめた。

2　名はバック・カム・カーン，チエン・ギアの長をつとめた。

3　名はバック・カム・カン，ムオン・バームで教師をつとめた。

67）ꪜꪱꪀꪹꪷꪱꪀꪶꪹと翻字するべきであろうか。

68）原本には，この4の数字の前に，「48代の長（48ꪻꪻꪱꪜ）」という書き込みがある。このバック・カム・ヴィンが48代目のムオン・ムオイ首領という意味であろうか。その意味と根拠は不明である。

69）ꪜꪜꪶ（*bằng*）はキン語のbằngであり，ここでは「証書」のことであり，3証書とは，仏領期のことであるので，小学校，中学，バカロレアの卒業証書のことであろう。ムオン・タックすなわち現ソンラー省イエンチャウ県のアン・ニャーと述べたあとが文章になっていないが，おそらくムオン・タックのアン・ニャーをつとめたという意味であろう。

70）現ソンラー省ムオンラー県タブー社（xã Tạ Bú）にあたる。

71）「死んだ」と書かれたあとに，それがうち消されて，ムオン・キエンで教師をしていることが書き加えられている。

72）ꪵꪶꪶꪾは，キン語のhương sư（郷師）すなわち仏領期の村落部の小学校教員のことである。

73）ソンラー省のことであろう。

74）ムオン・ムオイの政治的，儀礼的な中心地チエン・ディー（ꪻꪶ ꪫ，*Chiềng Đi*）であった。チエン・リー（ꪻꪶ ꪮ, *Chiềng Li*）ともいう。現ソンラー省トゥアンチャウ県チエンディー社（xã Chiềng Đi）にあたる。

〈21.5〉バック・カム・ムオン［20.2-1］には息子が3人いた。

1　名はバック・カム・フオン，ムオン・ムオイ副里[75]，ムオン・ムオイのチャイン・フィア[76]をつとめた。

2　名はバック・カム・バーン，パーン村の長をつとめた。

3　名はバック・カム・ザン，役職はなかった。

〈21.6〉バック・カム・チン［20.2-2］には息子が10人[77]いた。

1　名はバック・カム・ヒエム，バック・カム・オン［21.1-1］を嗣いで通吏をつとめた。

2　名はバック・カム・ベン　｛エッ・トーン[78]の長をつとめた。｝

3　名はバック・カム・クオン　｛アン・ニャー・イウ[79]となった。｝

4　名はバック・カム・パウ　｛通判[80]をつとめた。｝

5　名はバック・カム・ズオン　｛チエン・ラー[81]の長をつとめた。｝

6　名はバック・カム・シン　｛書記[82]をつとめた。｝

7　名はバック・カム・スエン　｛医師[83]をつとめた。｝

8　名はバック・カム・ピン　｛チエン・ポックで村の教員となった。｝

9　名はバック・カム・□（チー）

10　名はバック・カム・スック　｛11　バック・カム・コッ　12　バック・カム・ジン｝

75）ムオン・ムオイ副里を書いたあとで，線で消した痕跡がある。

76）チャイン・フィアとは，チャイン・トン（正総）の役職であろうか。

77）あとで2人書き加えられているので，正確には12人である。

78）2人目の息子以下の事跡については，すべてあとで書き加えられたものである。なお，11人目，12人目の息子の名前についても，あとから書き足されたものである。｛｝の括弧内は，あとで書き加えられた箇所である。このノートを記述した人自身の筆跡と思われるので，あとで記述者が書き加えたのであろう。いつ書き加えたかは不明である。

79）原文にある ɵ̂ɔ̂ は「尉（ɵ̂ɔ̂ɤ́, uý）」と翻字できる。

80）ʕnɭɗɪɯ́e とは，仏領期の中級官吏を意味するキン語 phán（判）すなわち thông phán（通判）であろう。

81）現ソンラー省トゥアンチャウ県チエンラー社（xã Chiềng La）にあたる。大きな池があるので有名で水には恵まれており，水に恵まれないチョ村との対比で，「雨が降ったらチョ村のターイは両足をふるわせ，チエン・ラーのターイは布団を被って寝て泣く（ʕɑɯ ʕmneʕn vɪɯ́j qɵn, qɵn xɯ́e nɭɪ, ʕn ɣ́ɓ ŋɪ wɭɪ ɯɵɯ ʕɯɲj）」という諺で知られる。

82）ʕnɭ ɲ̂e は書記官のことであろうが，どの役所の書記官であったのかはこの記述からは不明である。

83）ʕnɭ ʕanе ɤɪ は医者のことであろう。

〈21.7〉バック・カム・ティエップ［20.2-3］[84]には息子が5人いた。

1　名はバック・カム・ドゥア[85]，ムオン・ラー州[86]で教師をつとめた。
2　名はバック・カム・コア　　｛ムオン・バームのフィア・フォーをつとめた。｝
3　名はバック・カム・コイ　　｛亡くなった。｝
4　名はバック・カム・トゥン　□[87]をつとめた。
5　名はバック・カム・ハオ

〈21.8〉バック・カム・ナム［20.2-4］には息子が1人いた。

1　名はバック・カム・チュック，ムオン・バームのフィアをつとめた。

〈21.9〉バック・カム・ファイン［20.6-1］には息子が2人いた。

1　名はバック・カム・ムア　　｛亡くなった。｝
2　名はバック・カム・アオ　　｛ムオンの長[88]である。｝

〈21.10〉バック・カム・チエン［20.6-2］には息子が4人いた。

1　名はバック・カム・クン　　｛亡くなった。｝
2　名はバック・カム・ホン
3　名はバック・カム・ゼン
4　名はバック・カム・ゾン

〈21.11〉バック・カム・イエン［20.4-2］には息子が2人いた。

1　名はバック・カム・ソン　　｛亡くなった。｝
2　名はバック・カム・イン　　｛ムオイ・ノイ[89]のフィアをつとめた。｝

84）このバック・カム・ティエップ（ꪜꪱꪮꪶꪀ ꪀꪱꪻ）が［18.2］，［20.2-3］のいずれかが実は記述のみからでは不明である。世代の順番から考えて，［20.2-3］のバック・カム・ティエップであろう。〈19.5〉の項を参照。

85）カム・チョンによると，現在米国アイオワ州に住んで，黒タイ語教科書「*Păp ép xư Tãy (‘Tay Textbook)*」や暦を毎年自費で発行し配布している Baccam Rang の父にあたる。

86）インドシナ戦争中の1948年，ソンラー省，ライチャウ省，フォントー省の3省からなる「ターイ自治領（Xứ Thái tự trị）」が，フランス統治下で発足した［Bộ chỉ huy quân sự（biên soạn） 1995：91］。この3省は16州からなり，ムオン・ラ州ーはソンラー省に属するそのうちの1つであった。

87）ꪵꪒ か，ꪵ√ か判読が困難である。いずれにしても意味がわからない。

88）ここでは ꪵꪒ ꪵꪒ という語が用いられている。正総のことであろうか。

89）現ソンラー省トゥアンチャウ県ムオイノイ社（xã Muổi Nọi）である。ムオン・ムオイの外ムオンであるチエン・ポックを形成していたローンの1つであった。

ルオン・ヴァン・ヌア[90)]

全部で48代の長が記されていて，一代80年として，紀元から3840年は経っていない。現在1950年で，さらに1890年残っている[91)]。

（-1890～1950），ザー村にて

補[92)]

〈22.1〉バック・カム・クイ［21.2-1］[93)]には息子が2人いた。

1　名はバック・カム・チョーイはなくなった。

2　名はバック・カム・バオは，パリに留学した[94)]。

〈22.2〉バック・カム・フイ［21.2-3］には息子が1人いた。

1　名はバック・カム・ディエウは教員をしている[95)]。

カム・カーン［21.2-5］には息子がいない。





ムオン・ノイは田地が少なく，従来の焼き畑に加えて，近年，斜面での果樹やコーヒーの栽培が盛んである（2002年11月撮影）

90）Monsieur Lường Văn Nựạ と記されている。

91）ムオン・ムオイ首領は全48代であり，1代を80年として計算すれば，ムオン・ムオイは始祖から3,840年ほどの歴史になる。つまり原本のノートを記述したのが1950年頃なので，紀元前1890年頃にムオン・ムオイの歴史は始まる。ここにある注記では，こういう計算をしている。しかし，ふつう長男は20歳代くらいには生まれているであろうから，1代を80年として計算するのは不自然である。しかも48代という根拠が不明である。なぜなら原本の記述に基づくと，本校注が示したとおり，ここには初代ロ・レップ公から22代しか示されていない。いっぽう，この記述者が，世代数を無視して見出しの数だけを見たとすると，58である。

92）余白に書き足された書き込みを「補」とした。

93）ムオン・ムオイ最後のアン・ニャーであったバック・カム・クイ（ꞷɯnj ʼn nɔ̂ɤe 位1920-1945）である［Đặng vả Cầm　2002：170］。

94）パリに現住している。

95）カム・チョンによると，トゥアンチャウで教員をつとめた。

〈22.3〉バック・カム・イン［21.12-2］は，ムオン・ムオイ長官をつとめ，息子が1人いる。

1　名はタオ・カム　｛カム・チンの孫｝。[96)]

II 部引用文献

樫永真佐夫

2000 「ベトナムにおける黒タイ語表記の変遷 ── 少数民族の文字文化」ベトナム社会文化研究会編『ベトナムの社会と文化』第2号，風響社，133-178頁。

2001 「資料：ムオン・ムアッの黒タイ慣習法」ベトナム社会文化研究会編『ベトナムの社会と文化』第3号，風響社，284-351頁。

2002 「〈ムオン・ムオイの黒タイ慣習法〉について」『国立民族学博物館研究報告』65(3)：361-447頁。

2003 「(注釈) クアム・トー・ムオン ── ムオン・ムオイにおける黒タイ年代記」ベトナム社会文化研究会編『ベトナムの社会と文化』第4号，風響社，163-243頁。

Bộ chỉ huy quân sự tỉnh Sơn La (biên soạn)

1995 *Sơn La : Lịch sử kháng chiến chống thực dân Pháp (1945-1954)*. Hà Nội : Nhà xuất bản Quân đội nhân dân.

Cầm Trọng và Cầm Quynh (dịch)

1960 *Quắm Tố Mướn (Kể chuyện bản mường)*. Hà Nọi : Nhà xuất bản Sử học.

Cầm Trọng và Phan Hữu Dật

1995 *Văn hóa Thái Việt Nam.* Hà Nội : Nhà xuất bản Văn hóa dân tộc.

Đặng Nghiêm Vạn (chủ biên), Cầm Trọng, Khà Văn Tiến, Tòng Kim Ăn

1977 *Tư Liệu về Lịch sử và Xã hội Dân tộc Thái*. Hà Nội : Nhà xuất bản Khoa hộc Xã hội.

Ngô Đức Thịnh và Cầm Trọng

1999 *Luật tục Thái ở Việt Nam (Tập quán pháp).* Hà Nội : Nhà xuất bản Văn hóa Dân tộc học.

96) これがどれに対する説明なのかは，実は不明瞭である。本書の記述に基づくと，少なくとも，この人物はカム・チン（ꪀꪱ ꪒꪵ）の孫ではない。